ドイツ連邦食料・農業省　　農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 22
2023・1・30

1ベルリン国際農業大臣会議：７０人の農業大臣がコミニュケを採択
ー世界の食料システムの改革に合意ー　　（2023・1・23）

約 70 人の農業大臣が、GFFA（食料農業グローバル・フォーラム）に際して、第 15 回ベルリン世界農業大臣会議において、意欲的な最終コミニュケに合意した。テーマは、「食料システムの改革・複数の危機に世界規模で対応」である。

GFFA 世界農業大臣会議の出席者

ウクライナ大統領ウオロデイゼレンスキーが、この大臣会議にビデオメッセージを送り、ウクライナの食料イニシアチブへの支援を訴えた。

連邦食料・農業大臣ジェム オズデミールの招待で、世界の農業大臣並びに 14 の国際組織の高位代表者が、第 15 回ベルリン会議において、食料の権利を世界的にどのように実践するか、そしてそれがどう可能とするかを審議した。
オズデミール大臣：穀物の袋の代りに穀物サイロを贈る。

この大臣会議の最終声明において使用可能で、かつ手の届くそして安全な食料について合意した。オズデミール食料・農業大臣は、各国の農業大臣に変革プロセスについて、積極的に支援することをアピールした。世界農業大臣のコミニュケは、ロシアのウクライナへの侵略戦争と、それによって引き起こされている世界の食料の不安定性に対する、明確な変革を含んでいる。

食料の主権を実現するために、これまで多くの危機を同時に解決しなければならないことは、今まで無かったことである。ードイツ連邦食料・農業大臣オズデミール

第15回ベルリン世界農業大臣会議の主な成果：

ー **危機に強い食料システムの構築：**この目的は持続可能なそして弾力性のある、危機に強い食料システムを奨励することである。これは農業と人間らしい生活のできる、労働条件の経済的な基盤確保を含んでいる。その際、特に家族的、小規模な農業経営、女性、青年、脆弱なグループが支　援されねばならない。このための構成要素は、食料の無駄、食料損失の減少、ルールに基づく貿易、持続可能な食料のサプライチェーン（供給）、そしてその地域、現地に適応した栽培と大きな多様性である。

ー **気候に優しい食料システムの奨励：**農業に関して COP（国連気候変動枠組み条約）の第 17 回締約国会議・パリ協定の目標支持と、1.5 度目標の維持と並んで、持続可能な土壌ー栄養素管理と、畜産における温室効果ガスを削減しなければならない。気候変動への農業の適応は、支援されるべきである。これは農業に対するエネルギー消費の削減もまた含まれる。

ー **生物多様性の持続可能な利用と保持：**生物多様性の保持は、機能的な食料システムのための基本である。遺伝的な多様性と農業生物多様性を改善するために、土壌の健全性と農業エコロジー（生態学）が、強化されるべきである。肥料と殺虫剤の投入は、土壌と河川水の汚染を阻止するために、「効率的（無駄をなくす）」であること。

ー **持続可能な世界の食料システムのための協力強化：**世界の食料安全保障のための協力と重要なガバナンス（統治）の問題が、議論プロセスの中に持ち込まれた。世界農業大臣会議の結果は、さらに国連食料システムサミットのプロセスに、引き継がれることとなる。国連世界食料委員会（CFS）は、同じく強化される。つまり、ワンヘルス アプローチ（訳注）で示す各分野を越えた、共同活動を同じく強化するべきである。

（訳注・ワンヘルス アプローチ-動物、植物の衛生に関する分野横断的な課題に、連携して解決に取組むこと）

ー **国境を越えた協力：**ベルリン農業大臣会議は、このフォーラムの政治的なクライマックスである。フォーラムでの 4 日間は、政治、経済そして市民社会の代表者が、2020 年コロナ以来、初めて互いに「出席」しての参加となった。グローバルな、そして食料経済の中心的な将来課題について、この国際会議で意見交換を行った。連邦食料・農業省政務次官 Dr.ニックが、この会議を 19 日に開催した。そして”食料システムの革新”のタイトルのもとに、複数の危機への世界規模での対応に焦点を据えた。複数の危機　にも拘わらず、食料の安全保 障が世界的に長期にわたって成功するように。

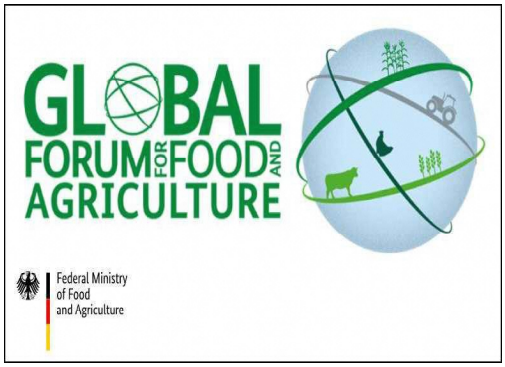
世界的にリードする会議：GFFA は世界的にリードする会議において、グローバル　な農業ー食料経済の将来課題を中心においた。これは 2009 年以来、毎年国　際緑の週間の初めに、食料安全保障をメインテーマのもとに、ベルリン支庁、　有限会社ベルリン見本市、ベルリン GFFA が共同でこのフォーラムを組織し、　図主催した。

連邦食料・農業大臣オズデミールが、ベルリン農業大臣会議終了に際しての談話：

気候危機、世界規模での種の喪失そしてプーチンの恐ろしい戦争が、交互に最悪の推移で強まっている。世界的に 8 億人以上の人々が飢えており、20 億人以上の人々が、十分な食料を手に出来ないでいる。ベルリンから今日（1 月 21 日）世界に明確なシグナルを送った。戦争と気候危機は、瞬く間に大きな被害を引き起こしている。一方、畑を耕すことは、さらに時間を必要とする。我々は短期的な危機の襲来の道から離れて、長期的に働きかけねばならない。

それ故に我々は、世界的に農業の発展を強化し、そして長期的な問題解決に焦点をあてる。穀物の袋ではなく、穀物サイロの建設を贈る。我々はその方向に歩んで行かなければならない。これに加えてこの会議は、協力の強いシグナルを送る。”我々は硬い確信をもっている。世界的により強く関与し、そして目の高さで共同の対話を強化する。我々の戦略は、長期的なパートナーシップの提供を創り出すことである。”

ベルリン農業大臣会議の終了に際しての
談話を述べるオズデミール大臣



GFFA　世界農業大臣会議

GFFA　世界の農業情勢を報告

「ベルリン緑の週間」の会場

２ニック政務次官：国際青年農業者フォーラムを開催

ー世界の食料システムの転換の推進者は青年農業者ー　（2023・1・18）

農業と食料グローバルフォーラム（GFFA）の併催行事として、国際農業青年フォーラムが開催される。連邦食料・農業省政務次官 Dr.オフイーリア ニックは、5 つの大陸から若い農業者を迎えた。政務次官ニックは、ベルリンの連邦食料・農業省庁舎に、17 の様々な国から若い農業者を招いた。

国際青年農業者フォーラムへの参加者

この青年農業者フォーラムは、ラ・ビア・カンペシーナ（訳注）の代表者も初めて参加した。この団体は、小規模農業者、農村労働者、漁業者、土地をもたない農業者そして先住民の国際同盟である。

”国際青年農業者フォーラムは、機能的かつ多国間そして学際的（各学問分野に跨る）な共同活動の優良事例である。このフォーラムは今日（1 月 18 日）提起されている課題を農業後継者が、共同で多様な危機が意味する問題に取組む。今、青年の声を聞くことが重要である。なぜならば、今日決定したあらゆる取り決め、そして採択した政策を、青年たちが実行するからである。青年たちは、我々の食料政策のグローバルな変革の推進者である”と、政務次官ニックが開会挨拶で述べた。

その際、この課題設定は国際農業青年フォーラムにおける議論の中心に据えられている。ここで議論される共同の要求について、この青年グループが、2023 年 1 月 21 日（土曜日）に開かれる農業大臣会議で報告する。

”我々の食料システムを持続可能に創るために、農業者の若い世代が決定的に重要である”と、ニックが述べた。

国際青年農業者フォーラムは、GFFA の一部である。このフォーラムは、17 人の青年農業者の間で、多様な経験ー知識交流のための基礎を築く。青年達は、アメリカ、ニージーランド、コスタリカ、ケニア、ネパール、ジンバブエそしてインドネシアから参加している。

（訳注・ラ ・ビア・カンペシーナ：スペイン語で「農民の道」、1993 年に 81 カ国、182 の組織で設立された。アジア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカの先住民族組織を調整する国際組織でもある。「食料主権」の言葉を創りだした。）

背　景：

GFFA は、農業と食料の中心的な課題に対して、しっかりと確立した国際レベルの会議である。第 15 回 GFFA は、2023 年 1 月 18 日～ 21 日まで、「食料システムの変革、多くの危機への世界規模での対応」のタイトルで開催された。

この行事のクライマックスは、1 月 21 日にベルリン農業大臣会議である。この会議は、連邦食料・農業大臣オズデミール議長のもとで開催された。この会議には、70 ヵ国の農業大臣が参加した。

国際青年農業者フォーラム

1

ラ・カンペレーナ（農民の道）のデモ

３ 連邦食料・農業省：ドイツとフランスの農業大臣が協議

ーヨーロッパ農業の中心課題を定期的に協議ー （2023・1・23）

ドイツとフランスは、ヨーロッパ農業政策の中心課題における密接な共同活動に合意した。ドイツーフランスの閣僚会議に関連して、エリーゼ協定の署名後 60 周年を機に、ドイツのオズデミールとフランスの同僚大臣マルク フェズノーが、ヨーロッパの農業政策上の鍵となるプロジェクト強化で合意した。

ドイツとフランスの農業大臣会議 （手前右側オズデミール大臣、左側マルク大臣）

これについてオズデミール大臣の説明：

”ドイツとフランスは、比類なきそしてかけがえのない関係であり、その礎石は 60 年前に置かれた。つまり、全ヨーロッパの前に出現している挑戦に対して、対応を見出す責任が生じている。気候危機、種の絶滅そしてウクライナに対するプーチンの恐ろしい侵略戦争に直面している。我々は、重なり合っている危機に強く、そして抵抗力をもった農業のために、尽力しなければならない。これは我々が共に動くことで成功できる。”

両大臣は、ヨーロッパレベルにおける以下の課題に共同で、より強く推進することで合意した。

ー 食品の表示：ヨーロッパレベルで統一した表示の奨励

消費者に食品の産地、成分組成、食料の栄養生理学上の品質並びに製造方法など、透明性のある適切な情報提供を行うこと。そして消費者に対して、持続可能な食料システムへの転換に際して、生産者の努力を評価した情報を提供する。

ー 植物蛋白：ヨーロッパ同盟における植物性蛋白作物の生産拡大

これは環境、気候そして食料を考慮して、植物性蛋白の優れた特性を活用する。これは食料システムが自立的にそして抵抗力を創り出すためにも。このシステムの中には、植物性蛋白の研究、生産、加工そして消費の奨励を内容として含んでいる。

ー **森林の気象変動への適応：気候危機への森林の適応分野におけるドイツ・フランスの共同活動の強化**

この共同活動の中には、森林の抵抗力強化と、気候の変動に応じたキクイムシといった害虫の防除が含まれている。また共同活動は、専門化グループの設置でもって始まる。このグループは、ドイツとフランスの森林におけるキクイムシの防除に取組む。両大臣は、さらにこの共同活動の進捗状況について定期的に情報交換を行うこと。そして今の共同プロジェクトの実行を継続することで合意した。

食品の原産地・栄養価・飼育方法等の表示は消費者の購入行動を支援する。

カロリー、脂質が低い植物蛋白の代表大豆の収穫

干ばつとその後のキクイムシの被害で枯れあがった樹木。森林所有者が対策を協議

農薬の代替え方法の研究開発が急がれる。

4　オズデミール大臣：農業と農村地域におけるデジタル化の奨励を促進

ドイツ全土 14 カ所の研究圃場奨励証の授与

連邦食料・農業省（BMEL）オズデミール大臣が、「将来的な農業経営と農村地域の奨励決定証」を授与した。彼は 2023 年に国際緑の週間において、BMEL によって設置された「プログラム・将来農業経営と将来農村地域」を、奨励認定した。このプログラムは、農業の上ー下流バリューチェーン（価値創造）のための研究奨励のための研究である。

既に連邦食料・農業省によって組み立てられた、農業におけるデジタル実験圃場は、高性能なモバイルフンク（移動体通信）ーブロードバンド（広帯域）ネットワーク並びに最新のデジタル技術を、農業と農村地域のために有益な試験を奨励する。

これに関して連邦大臣オズデミールが説明した：

”資源を大事にする農業を可能にし、農村地域を強化するために、デジタル化は大きな潜在力をもっている。我々は今約 2　200 万ユーロ（約 28 億 6 000 万円）を、この研究のために準備している。これは非常に適切な投資である。我々は農業分野と農村地域におけるデジタル化への転換を、持続的に促進する。”

背　景：

連邦政府は、将来の農業経営と農村地域並びにバリューチェーンの上ー下流について、「農業におけるデジタル化の奨励指針」を公表した。これに基づいたプロジェクトが奨励され、高性能なモバイル通信ー広帯域ネットワーク並びに有益な最新デジタル技術を、農業及び農村地域において試行する。

モジュールⅠ：将来農業経営

将来農業経営の目的は、デジタル化の活用で特別に高性能なモバイルー広帯域ネットワークの配慮のもとに、農業のためにそして同時に将来性のある開発を支援する。これについて農業経営は、あらゆる規模の経営が恩恵を受ける。

同じように、持続可能性、家畜の福祉、環境ー自然ー気候保護並びに労働の軽減をさらに促進する。

その際、農業経営における基本的な課題には、作物生産と家畜の飼育もまた、デジタル将来経営の中に含まれる。ここでは、農業者、農業機械製造者、ソフト開発、サービス業、コンサルタントそして研究が、共同で集中的に活動する。

モジュールⅡ：将来農村地域

このモジュールの中心点は、将来農村地域における地域のバリューチェーンと、販売のためのデジタル化のチャンスを、活用できる課題が存在している。

そのため、全体的に農村的な特徴が刻印される地域において、デジタル化が奨励される。5G（第５世代移動通信システム）の可能性又は非常に良い広帯域接続は、デジタルで支えられる農村開発の意味において実施される（農場ーフォークー戦略政策についても重要）。この結果において、地域の農業の上ー下流にある分野においてもデジタル革新が試行される。

農村にもモバイル化の波がやってきた

農業管理にもデジタル技術を活用

国内 14 カ所にデジタル実験圃場を設置
緑の丸印：作物生産　黄色の丸印：畜産
黄色と緑半々の丸印：個別の分野を越えた包括的な課題

りんごの収穫ロボットの実験

５ 連邦食料・農業省：第 16 回農村開発未来フォーラムの開催

ー農村の未来創造のための話合いの場をー　（2023・1・25）

「農村・可能性・気候」のモットーのもとにメインテーマ「農村地域と気候保護」で、2023 年未来フォーラムが開催される。連邦食料・農業大臣オズデミールは、ベルリン見本市会場で 1 月 25 日に、この行事を主催した。”エネルギー供給と将来の交通手段、地域内の経済循環または極端な気象に対する保護など、農村の人々は、課題解決と農村の発展と実践に重要な役割を発揮する。革新と改革者精神は、農村部に宿っている”と、オズデミールが、このフォーラムの開会あいさつで述べた。

2023 年農村開発未来フォーラムで開会の挨拶をするオズデミール

彼は同時に多くの未来形成者に、互いに話し合う場の提供できることを喜んでいる。連邦食料・農業省（BMEL）は、未来の農村地域の開発に際して、32 の専門化フォーラムと変化に富んだサポートプログラムにおいて、次のような質問に焦点をあてている。

- 農村地域の気候変動に対する適応に際して、どのようなチャンスと挑戦に対処するのか？ そして農村の人々にとって何を意味するのか？
- 農村地域においてどのような気候保護を実施し、そして農村地域は気候保護目的達成のため、どのような貢献を果たすことができるのか？
- 農村開発のために必要な改革プロセスで何が生ずるのか？

この未来フォーラムは、2023 年 1 月 25 日～ 26 日にベルリンにおいて、ハイブリットイベント（訳注）として開催される。今回はパートナー国のアイルランドとパートナー部門として、ドイツ連邦環境・自然保護・原子力安全・消費者保護省（BMUV）が参画している。

（訳注・ハイブリットイベント：実際に参加する人（リアル）とオンラインの両方で開催するイベント方式）

農村開発未来フォーラムについて

この未来フォーラムは、ドイツにおける農村開発上の問題について、大規模なそして重要な国内フォーラムである。これは連邦食料・農業省によって、毎年 1 月の国際緑の週間において開催されている。

第 16 回農村開発未来フォーラムのポスター

2020 年第 13 回フォーラムで挨拶する クレックナー前大臣

未来フォーラムの会場

未来の農村を議論する青年達

6 森林諮問委員会：未来を見据えた森林政策の提言書を大臣に提出

ー森林の社会的要請を踏まえた連邦森林法の改正ー （2023・1・26）

将来を見据えた連邦森林法改正への道での重要な礎石を築く。

連邦食料・農業大臣オズデミールは国際緑の週間に、森林政策科学諮問委員会（WBW）のポジションペーパー（方針説明書）を受取った。この委員会勧告において、森林経営の持続可能な管理のための委員オプション（森林政策上の選択肢）を提案した。

提案書をオズデミール大臣（右から 2 人目）に手渡す諮問委員会諮問委員会のメンバー

この中で森林所有者と保養やハイキングなど、社会的な要請との間の新しい負担配分を提案している。これは社会的な要請に沿った森林の利用と、その森林の保護を効果的に組合わせるものである。

その際、諮問委員会で特に問題になったのは、連邦森林法における森林経営のための最低基準を、どのように具体化するかである。同時に法的に安定した実践を、どのように保証するかである。森林所有者の信頼と将来を見据えた森林管理、並びに生物多様性の改善である。諮問委員会は、森林管理の柔軟なコントロールのための連邦森林法における補充で、広い組合せを主張した。これでもって、森林に対する様々な社会的な要請、その森林の保護と適切な管理を、埋め合わせられる。

諮問委員会の考察は、連邦森林法改正のプロセスにおいて組み入れられた。

この改正は、連立政権協約の中心的な森林政策の経過として、社会的な要請、そして気象ー自然保護と同じく各州の特殊性、バリューチェーンと森林管理のとの間のバランスのとれた規制を見つけることが目的である。

背　景：

森林政策諮問委員会は、森林の持続可能な管理のための大枠条件づくりに際して、連邦政府を支援する。様々な科学的な専門分野の代表者とともに、森林に対する社会的な要請を反映させる。諮問委員会の役割は、国内及び国際的な森林政策の原則と目的を検討することである。さらに森林への多様な社会的要請の間のバランスをとることに尽力し、そして持続可能な、かつ多様な森林管理に関する科学的な議論を進める。さらに森林の現状を分析・評価する。そして変化する森林の必要性に刺激を与え、多様な科学ー社会分野のイニシアチブ（構想、動き）を取上げる。

黒い森地方の伝統衣装の若者

ドイツ国民に愛される黒い森

ドイツ南西部に広がる面積 5180 ㎢、

お祭に子供達も伝統衣装で

干ばつとキクイムシの被害で森が枯れる

森林所有者は公的なサポートを求める

森は子供達にとって魅力的な遊び場

森への社会的要請を踏まえた森林法改正

森林政策諮問委員会構成メンバー

	氏　　名	所　　属　（役　　職）
会　長	教授 ユルゲン・バウフス	フライブルグ大学　森林科学研究所造林部長
会長補佐	教授　ウテ・ゼーリング	ベルン応用科学大学 農業森林食品科学大学
委　員	教授　マテイアス・デイター	チューネン研究所(ハンブルグ)　林業研究所
	Dr.　ニーナ・ファーウイグ	フイリップス大学 マールブルグ校生物学部
	Dr.　ラインハルトヒュットル	ドイツ地球科学研究所
	Dr. ハビル・ラルフケッツエル	エーバース ヴァルデ森林生態学・モニタリング部長
	教授　ﾋﾞﾙｷﾞｯﾄ・ｸﾗｲﾝｼｭﾐｯﾄ	ベルリン工科大学建築環境部
	Dr. フリーデリケ・ラング	フライブルグ大学森林科学研究所土壌生態学部
	Dr. マーカス・リンドナー	東フインランド大学理学部欧州森林研究所
	教授 ベルンハルト・ﾒｰﾘﾝｸﾞ	ゲオルグ・アウグスト大学ゲッテイング森林研究所
	Dr. ヨルク・ミュラー	ヴユルツブルグ大学 生物生態学講座
	教授 ﾏﾝﾌﾘｰﾄ・ニーキツシュ	ゲーテ大学フランクフルト生態・多様性研究所
	Dr. ｳﾙﾘｯﾋ・シュラムル	バーデン・ヴュルテンベルグ州

２０２３・１・２８　訳
青森中央学院大学
地域マネジメント研究所
中川 一徹